

## 参考文献

知念司ら 2017. ケーングラスの農薬登録に向けた残留農薬試験. 沖縄県畜産研究センター研究報告 54, 43-49.

服部育男ら 2013. 地域資源の活用－放牧から自給飼料, サイレージまで. 最新農業技術畜産 6. 農山漁村文化協会, 東京, pp.213-221.

境垣内岳雄ら 2014. 黒穂病抵抗性に優れた多収の飼料用サトウキビ品種「しまのうし

え」の育成. 九州沖縄農業研究センター報告 62, 41-51.

境垣内岳雄ら 2015. 収穫時期の異なる年2回収穫栽培における飼料用サトウキビ品種KRF093-1の生育および収量. 日本作物学会紀事 84, 41-48.

境垣内岳雄ら 2017. 鹿児島県奄美地域における収穫時期の異なる年2回収穫栽培での飼料用サトウキビ品種「しまのうしえ」の生育および収量. 日本作物学会紀事 86, 56-61.

境垣内岳雄ら 2018. 畦間間作した冬作飼料作物が飼料用サトウキビの株出しでの生育及び収量に及ぼす影響. 日本作物学会九州支部会報 84, 44-47.

境垣内岳雄ら 2019. 黒穂病抵抗性ならびに耐倒伏性に優れる飼料用サトウキビ品種「やえのうしえ」の育成. 農研機構報告九州沖縄農業研究センター 68, 34-48.

寺島義文ら 2007. 南西諸島の新しい飼料作物－飼料用サトウキビ新品種「KRF093-1」. 日本草地学会九州支部会報 37, 34-36.

### 田畑の草種

### 高三郎 (タカサブラウ)

キク科タカサブラウ属の一年草。水田雑草として日本各地で見られ、溝や湿地、湿気が多い畑などでも普通に見られる。高さ30cmから60cm、夏に直径1cmほどの舌状花と筒状花の白い花をつける。

日本在来とも史前帰化とも。古いにしよから田の中や湿地で目についたはずだが、この地味な白い花は万葉人や平安貴族に取り上げられることはなかった。

古いにしよ人に取り上げられることはなかったが、平成になって、草木詠の多い永田和宏によってこんな風に詠われた。

たかさぶろうの花教えてくれぬ

たかさぶろうの花はどうしても覚えられない

(永田和宏『饗庭』)

どうしても覚えられない「たかさぶろう」の花を教えてくれないのは妻で歌人である河野裕子。その裕子の歌。

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

あなたには何から話さうタカサブラウ

月が出るにはまだ少しある

(河野裕子『葦舟』)

「あなた」は夫である和宏氏。陽が沈みかけてうす暗くなってきた中に浮かぶ灰白い「タカサブラウ」の花を思いながら、裕子は「あなた」に何を話そうとしていたのだろうか。

自作自注に「この植物の名や男の子のような雰囲気魅かれる」とあるが、この地味な花を「高三郎」と名付けたのは誰なのだろう。

その裕子の歌への返歌。

もういちど高三郎を教えてよ

ありふれた見分けのつかない高三郎を

(永田和宏『夏・二〇一〇』)